

「学ぶ力」	
実態	課題
<p>成果</p> <p>◇全国学力・学習状況調査の児童質問の結果から、「自分で学び方を考え、工夫することができる」児童が多く、主体的に学ぼうとする実態が見える。また、「友達の意見を大切にしながら、協力して課題の解決に取り組んでいる」児童も多く、協働的に学ぶ力も育ってきている。</p> <p>◇本校児童アンケートの結果から、「分かるまで努力する」児童が多いという実態が見え、粘り強さや調整力も身に付いてきている。</p>	<p>課題</p> <p>◇本校児童アンケート、保護者アンケートの結果から、「1日の時間の使い方を自分で考えて生活している」「自分で計画を立てて継続的に学習している」といった、自己の生活や学習を自ら調整する力に課題があることが明らかとなった。</p> <p>◇発達段階の影響もあるが、「失敗を恐れず挑戦している」という項目の肯定的回答が、高学年に向かうにつれて減少していく傾向が見られる。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇本校児童アンケートの「自分にはキラリ（よさ）がある」「友達のキラリを見付けている」等の相互承認に関する項目において肯定的な回答が多く、自己共によさを認め合いながら生活しているという実態が見える。異学年交流を通して様々な学年との繋がりを大切にしてきたことや、日常の学習場面においても協働的に学ぶ場を設定してきたことが結果に結び付いたと考える。今年度は、自己選択や自己決定を経験したり、学びの過程を振り返り成果を実感したりすることで、失敗を恐れず自信をもって様々なことに挑戦できるよう、場や関わりを工夫していく。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

一人一人が問いをもち、自己選択と自己決定を繰り返しながら解決に向かい、協働的に自分の学びを創っていく力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究主題「自ら働きかける子ども」～みんなと創るわたしの学び～の実現 →子ども一人一人に「問い」が生まれるイントロダクションの工夫。 →解決の仕方を自己選択・自己決定する場を保障することで、主体的に課題や仲間に働きかけようとする意欲を引き出す単元構成と教師の関わり。 →学びの成果の実感と次への意欲を生み出す評価の工夫。</p> <p>(2) 総合的な学習の時間（キラリ学習）の充実 →他教科との関連を意識した、教科横断的な課題を設定し、追究する。 →キャリア教育では、外部講師を招き職業講話を取り入れる。</p>	<p>①高学年による「プロジェクト」活動の実施 →運動会や宿泊的行事、異学年交流等の取組を自主的に企画・運営するための「プロジェクトチーム」の立ち上げ。</p> <p>②異学年交流（はるにれ活動） →運動会、遠足、中休みを共に過ごす機会を設け、上位学年が企画・運営をすることで相手意識と憧れの気持ちを醸成する。</p> <p>③ロープジャンプ大会等の充実 →記録向上に向けた話し合いを行ったり、練習を工夫したりする。</p>
	<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p> <p>◇主に（1）について、自己選択の一つとして端末を活用できるようにしたり、自分の考えや学びの足跡、自己評価などをデータで記録したりすることで、学びの実感や次への意欲を喚起できるようにする。</p> <p>◇主に①に関わって、クラスルームを活用し、常に情報を共有できる環境を整えることで協働の意識を高めることができるようにする。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

